

スクールソーシャルワークの視点

～子どもたちや家庭を支援するために～

和歌山県教育委員会

今、児童生徒を取り巻く環境の急激な変化が、不登校やいじめ、暴力行為、非行といった問題行動等にも影響を与えています。

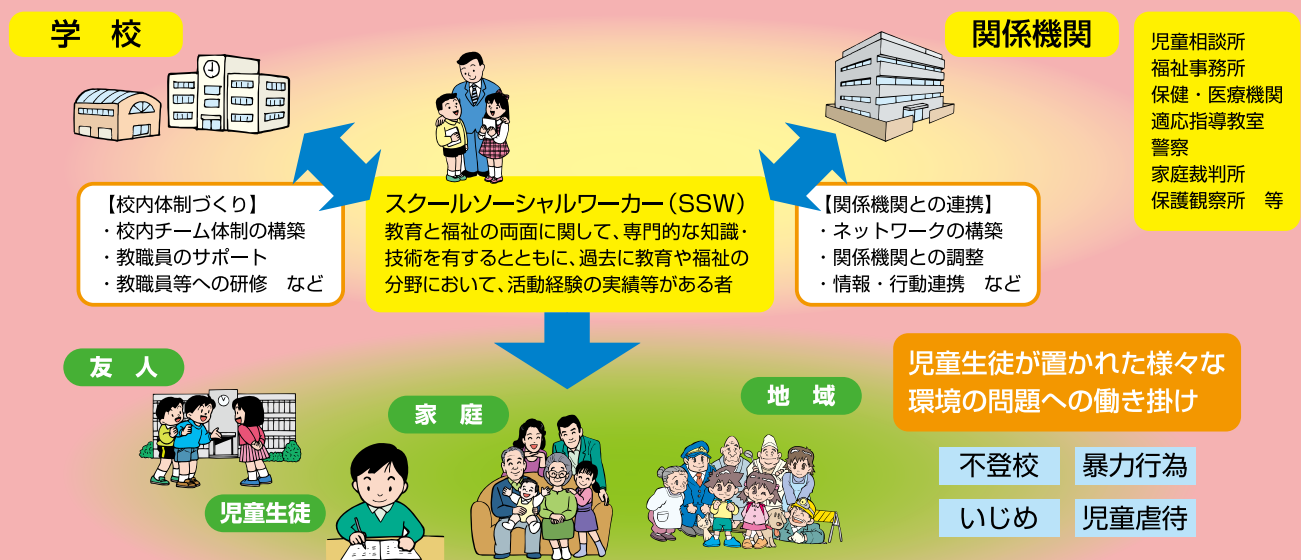
児童生徒の問題行動等の背景には、心の問題とともに、家庭や学校、友人、地域社会など、児童生徒を取り巻く環境の問題が複雑に絡み合っています。

そのため、

- 児童生徒が置かれた環境の問題（家庭・友人関係等）への働き掛け
- 関係機関等との連携・調整

が一層求められています。

そこで、学校だけでは対応が困難な事例等に対して、関係機関と調整・連携を図りながら、児童生徒を取り巻く環境の改善を図るため、社会福祉の視点を持った働き掛け（ソーシャルワーク）の手法が取り入れられてきています。学校がこの手法のもと児童生徒や保護者の相談に応じたり、福祉機関とのネットワークを活用したりするなどの支援を行うスクールソーシャルワークの取組が重要になってきています。



学校において、このような中心的な役割を担うスクールソーシャルワーカーが全国的に導入されてきています。（上図参照）
学校の職員等が、研修等を通してスクールソーシャルワークの視点を持つことで、問題を抱える児童生徒や家庭への支援を効果的に行えるようになります。

スクールソーシャルワークの特徴

「環境に働き掛ける」「つなぐ」

- ・問題を人と環境との関係においてとらえ、問題を抱えている児童生徒とその置かれた環境に働き掛けを行います。
- ・個人の抱える心理的な悩み、ストレスなどの問題だけではなく、経済状況や雇用状況、法制度や社会・文化等に関わることも視野に入れ、関係機関等とつなぐことで支援を行います。
- ・チームで役割分担を行い、常に協働を意識しながら当該児童生徒等への関わりを進めます。